

授 業 公 開 特 集

1. 平成 23 年度前期授業公開の実施

平成 23 年の 6 月 20 日（月）から 26 日（土）の 1 週間にわたり実施された、平成 23 年度前期授業公開についてご報告したいと思います。授業公開期間中には、ほぼすべての専任教員にご協力いただき、145 の授業を公開することができました。FD News Letter の第 2 号には、平成 18 年 12 月当時の専任教員 142 名を対象とし 103 名からの回答を得たアンケートの集計結果が載っています。それを見ると、「授業改善を目的に自分の授業を公開しますか」という設問に対して、「積極的にする」という回答は 19%にすぎず、「まあする」が 43%、「あまりしたくない」が 25%、「しない」が 12%という結果でした。5 年前のこのアンケートと比べると、現在、授業公開について本当に多くの先生方にご協力いただけていることを感謝したいと思います。

なお、FD News Letter のバックナンバーにつきましては、東京家政大学ホームページの「FD への取り組み」にアクセスすることで、ご覧いただくことができます。

従来の授業公開では、参加者（見学者）は非常勤を含む教員にかぎられていましたが、今回から参加者の枠を職員にまで広げさせていただきました。「学生を育てる」という目標を職員も共有することを意識してもらい、授業について教職員がともに語り合える環境を築いていきたいと考えてのことです。この点に関しまして、教員への周知がなされていなかったために意図が伝わらず、ご心配をおかけしました。事前のご報告を怠ったことをお詫びいたします。趣旨をご理解いただき、今後ともご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

		見 学 し た 側													計
		児童・保育	児童教育	栄養	服飾美術	環境教育	造形表現	英語コミュニケーション	心理カウンセリング	教育福祉	教育・学生支援センター	総務部	図書館	不明	
少なくとも1つの科目を見学した人数		16	1	15	6	2	12	3	2	2	11	4	14	2	90
公 開 し た 側	教授	3		7	2	1	4	2	1						
	准教授	7	1	3	2	1	2	1							
	講師	3		1	1		2			2					
	助教	3		4			2								
	助手			1	1		2		1						
	児童・保育(18 / 29)	15			2		5	1	4		21	1	3	1	53
	児童教育(6 / 12)	4	1		2		3				2				12
	栄養(19 / 28)	3		24			1		3		6	1			38
	服飾美術(8 / 17)				6		4		1	1	6		1		19
	環境教育(4 / 10)	1				3		1	2			1			8
公 開 し た 側	造形表現(11 / 12)	1			1		22	1			3			2	30
	英語コミュニケーション(7 / 18)	1					1	2	2		4		2		12
	心理カウンセリング(8 / 9)								5		6		3		14
	教育福祉(6 / 9)	3			1				1		1	1	7		14
	人間文化(1 / 1)	2			1					1		1			5
	全体(88 / 145)	30	1	24	13	3	36	5	18	2	49	5	16	3	205

そこで、今回から公開授業リストの中に、履修者数と授業形態（講義か演習か）を加えることにしました。「授業のねらいや特徴も知りたい」という意見もいただきましたが、公開授業リストが大きくなりすぎるのを避けるために、今回は見送りました。また、公開授業リストに記載された教室が違っていたケースがこれまで何件か報告されていますので、教室名の確認を徹底したいと思います。なお、公開授業リストは、印刷して配布するだけでなく、ウェブ上（「FD への取り組み」）に PDF として置いておく予定です。

・授業のねらいを理解するには、本来 90 分すべてを見学すべきだという意見がある一方で、ある程度楽な

気持ちで授業見学を体験するためには 15 分程度の見学にも意味があると考えられます。そこで、今度の授業公開でも見学時間は自由としますが、現状を確認する意味で、見学した時間を参加票に書いていただくことにしました。おおよその時間でかまいませんので、ご記入ください。

授業公開に関するご意見は、随時、

ed_support@tokyo-kasei.ac.jp までお寄せください。また、FD News Letter では今号から FD 雑感という新コラムを設けます。皆さんからの投稿をお待ちしています。

（FD 委員会 井上 俊哉）

F D 雑 感

FD 委員をしていると、多くの先生方から、授業アンケートに関して、様々な疑問やご意見をいただく。「質問項目がよくない。」「全ての授業で実施するので学生が飽きている。」「学生がいい加減に回答している。」「学生に授業を評価する力があるのか。」「授業を評価することで、学ぶことへの謙虚さが失われるのではないか。」などが代表的である。

このようなご指摘には、いろいろな工夫をして、丁寧に改善していく必要があるだろう。例えば、東京家政大学の FD 活動の目的をかなり具体的なものにすれば、質問項目に対する納得も得られるだろう。もちろん授業には様々な種類や目的、形態があるため、FD 活動の目的を具体化すること自体に慎重な議論が必要になる。

アンケートに学生が飽きてしまい、いい加減な回答になることについては、質問項目を削減する、あるいは

は授業アンケートの意義を学生にわかりやすく伝えるという手段が考えられる。さらに、授業とは教師と学生の双方で成り立っているものであるから、授業アンケートの回答者は教師だけを意識するのではなく、回答者すなわち学生自身の学びの見直しもして欲しいというメッセージも送りたい。

授業アンケートには数々の問題点があるが、学生の声がフィードバックされる貴重な機会でもあるので、大切にしたい。ただし、自由記述欄の回答には大きな影響を受けないようにしたい、というのが授業実施者としての私の方針である。特に使用教材や授業方法に関する少数の批判的意見は要注意である。ほとんどの学生がある程度満足しているはずのことでも、数名の否定的記述は、大部分の学生の声のように聞こえてしまうからである。

（教育心理学研究室 平山 祐一郎）

■FD ニュースレター No.5

2011 年 11 月発行

編集：東京家政大学・東京家政大学短期大学部 FD 委員会

発行：東京家政大学・東京家政大学短期大学部

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

http://www.tokyo-kasei.ac.jp

2. どのくらいの参加者数があったのか

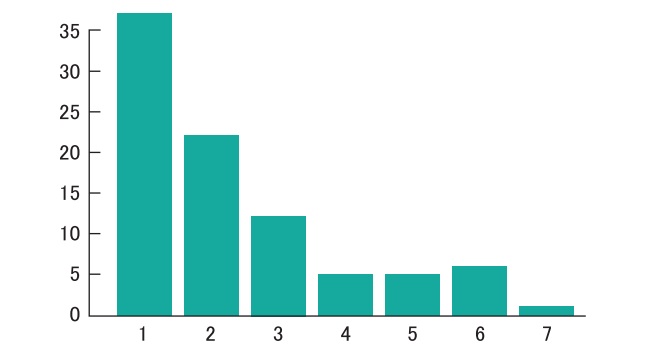
授業公開は、それぞれの教員が自分の授業を公開しておしまいというのではなく、見学者としても参加する、つまりお互いに見学し合うことで意義が増すと考えられます。平成 23 年度前期授業公開では、実際にどのくらいの数の見学者があったのでしょうか。授業見学後に提出していただいた参加票にもとづく集計結果を、前ページの表にまとめました（見学していても参加票を未提出の方もいらっしゃるため、実際の見学はこの集計よりも少し多かったと思われます）。

それぞれの学科・科の教員、部署の職員がどのくらいの授業を見学したかを見るには、列にそって縦に目を走らせてください。児童・保育の教員を例にとると、16 人の方が授業見学者として授業公開に参加したこと、そのうち 15 人が児童・保育の授業、4 人が児童教育の授業を見学するなど、あわせて 30 の授業を見学したことがわかります（お一人で複数の授業を見学した方もいらっしゃるのので、のべ見学者数がいくらか大きくなります）。

一方、横（行）方向に見ていくと、学科・科で公開された授業がどのくらいの人に見学されたかがわかります。学科・科の名前の横の括弧内の数字は、（見学者があった授業数 / その学科・科で公開された授業数）を表します。児童・保育の授業については、公開された 29 の授業のうち、18 の授業に見学者があったこと、児童・保育から 15 名、服飾美術から 2 名などの見学があり、見学者ののべ人数は 53 人だったことがわかります。なお、表の左上から右下にかけての対角線上の数字を太枠で囲んでありますが、これは自身の所属学科・科の授業を参観した数を示すものです。自学科・科内の授業を中心に見学されているところと他学科・科の授業も多く見学しているところがあり、学科・科によって参加授業の選び方にも特徴があるようです。

この表をながめると、学科・科によって人数に隔たりはありますが、一定数以上の方が授業の見学者として、授業公開に参加してくださったことがわかります。少なくとも一つの授業を見学した人は 90 人（教員 59、職員 29、不明 2）、公開された 145 授業のうち少なくとも一人の見学者のあった授業が 88 でした。表からは読み取れないので、見学者があった 88 の授業について、見学者数の分布をグラフで示しておきます。

グラフの横軸が見学者数です。見学者数 7 名が最大値で、見学者が 1 人、2 人といった授業が多かったことがわかります。



本学で授業公開をはじめて試みた当初は、参加が低調でした。しかし、平成 22 年度後期の授業公開から、全専任教員に 1 つずつ公開授業を選んでいただき、これらを「見学してもよい授業リスト」として配布するという方式を採用してから、比較的多くの参加者が得られています。前出の平成 18 年 12 月のアンケートには、「授業改善を目的に、他の教員の公開授業があれば参加しますか」という設問もありました。この設問に対する回答の割合は、「積極的にする」24%、「まあする」47%、「あまりしたくない」18%、「しない」12% で、5 年前の時点でも約 7 割の教員が授業公開への参加意思を表明していました。同じ調査で集められた自由記述でも、「学科内でお互いの授業を参観し合うようにする」「授業相互公開を必ず実施してほしい」「授業公開を各教員に義務付け合評会を開く」など授業公開を望む声が多く寄せられていました。見学のしやすさを向上させ、見学したくなるように授業公開の実施法を考えれば、もっと多くの方の参加を得て、将来的に合評会などにつなげることもできるかもしれないと考えています。

3. 授業公開の意義（参加者の声）

公開授業への参加について、平成 18 年の調査では、約 3 割の教員が「あまりしたくない」または「しない」と回答していました。現在でも、授業公開に興味を感じない方もいらっしゃるかもしれません。しかし、いくつかの授業を実際に見学した経験から言わせていただくと、授業見学をすれば「何か」が得られます。自分の授業をよくする努力は、どなたもがなさっていると思います。自分なりにいろいろな工夫をすることは

とても大切なことです。しかし、他人の授業を見ると、自分一人では気づかなかった視点、授業のやり方に気付かされます。これまで一度も授業見学をされていない方は、だまされたと思って、1 つでも 2 つでも授業を見学してみることをお勧めします。ここで、参加票に書いていただいたコメントを織りまぜながら、授業公開の意義をまとめてみたいと思います（以下の文中の「 」内の記述はコメントからの引用です）。

① 公開すること自体に意義

見られて困るような授業はしていないつもりでも、見られることには緊張感が伴います。そうした緊張感から、自分の授業を見直そうという気持ちが生まれるような気がします（「見学する側にもされる側にも緊張感があり、授業について考える良いチャンスである」）。また、オープンであることそれ自体にも意味があるのではないのでしょうか。

② いろいろな気づき

見られる側だけでなく見る側も、多くの刺激を受けます。授業の進め方についてひとりで考えていても気づかなかった、いろいろな発見があります。グループディスカッションを取り入れた授業、とても丁寧な準備、学生との対話、段取りのよさ、黒板の使い方、学生に作業や発表をさせる、情報処理機器の活用法など、私自身いろいろなヒントを得ました。進め方や重点を置くポイントが、授業によって多様であることも実感しました（どれかがベストというのではなく、多様であること自体に目から鱗でした）し、こんな授業が本学にはあるのかという発見もありました。参加票にも多くの感想が記されていました。

「方法上の多くのヒントを得ることができ、いくつかはすぐにでも自分の授業に取り入れられそうです」「日頃自分の授業についてあれこれ模索しており、他の先生の授業を見学できることはとてもありがたい」「自分の授業のクセに気づいた」「とても丁寧な授業の運営を拝見し、すぐに自分にも取り入れることができるところも見つかった」「難しいことをわかりやすく伝える工夫があり、大変参考になりました」など多数。見に行くためには時間をとられますが、とられた時間に見合うだけの見返りは十分にあります。

③ 学生の様子を観察できる

自分で授業をするとき、学生の様子に十分注意を払っ

ているつもりでも、おそらくいろいろな見落としがあります。他の教員の授業を見るときには、学生の様子をじっくりと観察することができます。熱心に取り組んでいる学生がいる一方で、興味深い授業なのに後方で熟睡している学生、私語が絶えない学生など、受け身な姿勢が目立つ場面も見られました。こうした授業を見ると、学生の授業への関与を高める方策の重要性を痛感せざるを得ません（「所属学科の学生の様子と実習の実際を見ることができてよかったです」「学生がそれぞれ真剣に取り組む様子を見ることができてよかったです」「おしゃべりをする学生とトイレ（？）に立つ学生の数が多いのにびっくり」）。

④ そのほか

自分の所属学科・科の授業を見ることは、自学科・科の学生の様子を知るために有益だけでなく、授業間の連携をたしかめるためにも役に立ちます。また、他学科・科の授業を見ることは、自分の学科・科の特徴を知るうえでも、よい経験になります（「所属学科以外の先生の授業を拝見し、多くの点で参考になりました」）。

授業公開してくださった先生方への感謝のコメントも多く寄せられました（「こんな宝の時間を与えられ、しかも無料で、感謝の言葉しか出てきません」）。FD 委員会からも、ご協力に深く感謝したいと思います。委員会としては、授業見学をきっかけとして、授業について考え、語り合う環境が築かれていくことを期待しています。

4. 後期授業公開に向けて

授業公開のやり方・方式についても、いろいろなご意見をいただきました。そのすべてにお応えすることはできませんが、後期の授業公開ではいくつかの点を変更したいと思います。

- 自分の授業や学生指導などで時間を取られ、見学したい授業を見学できなかったという声が多く、授業公開期間を 2 週間に拡大してほしいという提案がありました。そこで、参加できるチャンスを増やすために、平成 23 年度後期は、授業公開週間を 2 週間設定します（12 月 5 日～10 日および 12 月 12 日～17 日）。
- 「見学する授業を選ぶうえで、履修者数や授業形態がわかるとありがたい」という意見をいただきました。